

新連載

よみがえる彩色

欲喜院聖天堂

今月は、ともに国重要文化財に指定されている「**聖天堂**」と「**貴惣門**」について紹介します。

第2回 「聖天堂と貴惣門の歴史」

聖天堂は、約830年前に建てられたとされます。火事などの被害で何度か再建され、現在の建物は、宝暦10年(1760)に完成しました。

この時の工事は、大工棟梁の**林正清**が統率しました。正清は、再建を企画し、優秀な職人を集め、お金を集めるため各地を回りました。工事の費用を負担したのは、幕府や大名、豪商ではなく、妻沼を中心とした庶民たちでした。しかし、道のりは平坦ではなく、大洪水などで中絶を余儀なくされ、正清は亡くなります。

正清の子、**正道**によって、色鮮やかな彫刻で埋めつくされた壮麗な建物が完成するのは、工事開始から25年後のことでした。この**聖天堂**は、榛名神社社殿(高崎市)など後の北関東の建築に大きな影響を与えます。



貴惣門

ところで、中絶の原因の一つとなった利根川の大洪水では、岩国藩(山口県)が、妻沼の復興工事を命じられました。藩士の中には、有名な**錦帯橋**(岩国市)の架けかえをした**長谷川重右衛門**がいました。造営中の**聖天堂**を見た重右衛門は、**貴惣門**の設計を思い立ち、正清に設計図を託します。この時から100年余りを経た嘉永4年(1851)、正清の子孫の**正道**によって、お寺の門としては県内最大級の**貴惣門**が、ようやく完成しました。

貴惣門の最大の特徴は、全国に四例しかない特殊な屋根の形です。ぜひ一度、三つ重なる**葺嵐**(山型の部分)を側面からご覧ください。

◆社会教育課 市史編さん室 ☎ 048-567-0355